
新説アンパンマン

ぽぽすみす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新説アンパンマン

【Zコード】

Z5707A

【作者名】

ぱほすみす

【あらすじ】

「皆んなは彼の名前の由来を知っているかな?」一握りの人以外、特に毎回必ずvideoにとっているチビッ子達は挙つて「お顔がアンコが入ったパンだからでしょ?知らないの?だせえーつ」と小馬鹿にされる。そんな弁解の価値の無い輩はさておき、本題に入ろう・・・

第01話（前書き）

この話の元となる『アンパンマン伝説』を先にお読みください。

<http://new.ume-labo.com/pc/main.php?m=w1-4&ncode=N5214A&am;p;>

「皆んなは彼の名前の由来を知っているかな?」

「握りの人以外、特に毎回必ず video にitti ているチビッ子達は挙つて、

「お顔がアンコが入ったパンだからでしょ? 知らないの? だせえ~」

と小馬鹿にされる。

そんな弁解の価値の無い輩はさておき、本題に入ろう。

出生に関してはある人が文章でわかりやすく説明してくれたはずだ。色々なものを入れていたが、肝心の『あん』には触れてなかつた。

あんこのパンの男性 = アンパンマン。

まあ、間違つてはいないのだが、厳密には違つ。

普段はアンパンの男性、あんぱんマンでそこごバイキンマンが奇襲をかける。

そこで奴は回避もせず顔を濡らす(なぜ濡ると弱るのかは別の機会に・・・)。

回避もせずつて言つたが、回避できないんだよね。

あんぱんマンの能力だと。

で、バター子がパンを投げる。

すると、「元気百倍ーー！アンパンマン」と叫う。

事実はこの言葉が全てだ。

だって、普通に考えて欲しい。

最初と同じハンなのになぜ百倍?

それは、あんこのパンから麻薬のアンパンのパンにかわっていたからだ。

これには、色々と事情がある。

ハイキンとただのあんはん

何をどう考へてもパンが勝てるはずが無い。

当初 あの世界は圧倒的な化学軍団にめりやぐやにあれていた

邪夢は自分の失敗作であるパンマン01に占領されていることが苦痛で、胃潰瘍によくなつていた。

出かけては、数時間後にかびだらけの体だけ玄関の前に置いてあり、重装備をして泣きながら体を洗う日々・・・・・

もうこんな生活には耐えきれない、そして、邪夢はあれの搭載に踏み切った。

魔薬・・・あんぱんにちなんでアンパン・・・・あんこの代わりにアンパンを入れて焼く。

成功するハズもない。

なにせ液体なので蒸発、残ったのは落とすのが大変そうな黒いごべりつき。

邪夢は洗い物が二つに増えても頑張り続けた。

ある日、疲れた人のための入浴剤『バブ』に癒されている時に閃いた。

そうか！！

工場で作られているショークリームの要領で作れば良いんだ！！！

早速パンツ一丁でパンをこね、釜戸へ。

待つてゐる間に下扉のガラクタ引き出しから注射器を搜し出す。

そして、アンパンを注射器でパンにブツ刺し注入。

バターバー子に持たせアンパンマン号で出動・・・・しかし、アンパンマンはいつもの通り玄関の前にかびだらけで置いてあつた。

おお、哀れなあんぱんマン、これから覚醒してアンパンマンとなる

のじや
！
！

そして · · ·

「元氣百倍！アンパンマン！――」

となるわけである。

彼が言つてゐることは嘘でねなし

しかし、アンパンのアンパンマンによつて、新たなる問題が浮上した。

麻薬取締法違反の疑いで家宅捜査・・・・もあつたが、一番の問題はアンパンの副作用である。

ドキュメンタリーの収録は元気百倍！！アンパンマン バイバイキン happy endとなるのだが、収録が終わるに連れて精神が薬に耐えきれなくなり、アンパンマンが暴走を起こす。

町をぶち壊し、数時間あひやあひや連呼・・・結果は言わんでも解るだろう無論、こんな悲しい現実、バイキンマンよりアンパンマンのほうが狂暴なんてちびっ子達に放送できるはずが無い。

それでも、みんなバイキンマン町が汚されるようはましだ、と思つてゐる。

だから、町のいたるところに対アンパンマン防護シェルターが完備

それでいるのだ。

第01話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶほほす！！」』も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

さて、『アンパン』についてはこれくらいにしておき、次にこう。ある人の話で触れられただけで詳しく語られなかつた眞実、「バイキンマンとアンパンマンの最終戦争」についてお話する。

ドキュメンタリー番組を見て分かるよつこ、ぼぼ毎日バイキンマンはアンパンマンを殺さうとして町を襲う。

で、毎回覚醒アンパンマンに吹き飛ばされ、軍の病棟で田を覚ます。誰もがみとめるだらうの科学力。

しかし、まともな作戦練つたことあるかい？

勿論無い。

ある日、病棟での夢の中で亀様（僕は神様を亀様と言います）に問われた。

何がどうあれ、ただのあんこパン野郎の顔が変わつたときから勝敗は決しているのだ。

わかるかい？バイキンマンよ、なぞのパンを作りし者、邪夢を殺れば奴も死んだと同然。

ああーそだよなあー、と感心する馬鹿な奴。

そうとわかればすぐ実行するのがバイキン軍団の悲しい性。

(計画ぐらじたてよづぜ・・・)

『横浜毎日新聞号外！！邪夢失踪、殺されたか！？』

上野駅に群がるおかしな大人達は驚愕した。

『今朝未明、住所不定、パン職人の邪夢さんが姿を消した。アンパンマンがパトロールに行って帰つてくる間の三十分、何ものかに連れ去られた。警察によると、すでにバイキンマンに逮捕状がており、パン工場内にはかびで「ガラパゴス」と印が残つていた。百人態勢で情報の収集にあたつているといふ。また、周辺に血痕が多く見られ、専門家は邪夢さんのモノであれば命が危ないと語つている。』

この時、アンパンマンは既に大きな戦いが始まることを悟つていた。

第02話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶっぽす！」』も良かつたら御覧ください！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

ガラパゴス諸島

「おまえか？邪魔おじさんを消したのは。」

「はつひふつへふー！ わあ、どうかな？」

一 ならば power でねじ伏せてやる！」

「……そのクソあん」「未だにおめえは物事を冷静に考えられないのかい?」「

・・・・その声は…！」

そう、その声の主は食パンマンだつた。

「貴様、誰が俺たちバンマン達を作ってくれたか忘れて寝返ったな

「おお、久しぶりだな、カレー・パンマン・・・忘れちゃいないぜ、偉大なる邪夢じい。でも、俺の兄弟がバイキンマンに捕われているんだ・・・。そつちにつくと兄弟が殺されちまうんだよ・・・許して

ぱんまん02の最大の弱点、濡れると死亡、をどうにかしようと邪夢は03、04とぱんまん達を製造しようとした。

でも、何をどうしても濡れないパンなんかパンではない。

仕方がないので、〇二のようすはアンパンの補給のいらない、半永久的に戦えるぱんまんを考えた。

それが〇三、通称食パンマン。

しかし、作業工程の四倍の酵母菌を誤って入れてしまつたがために、奥行が四倍長くなつてしまつた。

まあ、しようがないので適当に四つに切つたところ、生命体が四つになつてしまつたのだ。

隠し味に使つた金太郎飴が作用した結果だろ。

無論、〇二のようすにパンを入れることができないため、そんなに強くない・・・はずである。

その後、通常時の攻撃力を高めようとぱんまん〇四、通称カレーパンマンを製造した。

奴の攻撃方法、口からカレーを強力水鉄砲のように吐くことだ。

普段は副作用を避けるため、甘口が入つてゐるが、戦いの時になると「邪夢印の特製香辛料ミックス」を大量に口から入れ、クルクルバットをする。

だから、吐くカレーは強くなるのだが、目眩が治まるまでの数分、暴走する。

そこらへんにばらまかれたやばいカレーをゴーグルと防臭マスク、

「ム手袋など完全装備をして清掃する近隣の皆様のことを考えつて！！

一般市民が皮膚に触れただけで爛れてくる・・・まあ、欠点はそれだけではない。

皆さんはカレーパンマンが自分の顔をちぎりあげてこられるを見たことがあるだろうか？

カレーパンマンは顔をちぎるのを禁止されていい。

えつ？

見たことがあるって？

それは口ケガ冬だったんですね。

冬は寒いのまだ固形化しているのでなんとかなるが、夏は・・・
E・K・I・T・A・H・I・D・O・R・O・D・O・R・O！――うわあ、液体
体つこいつになあーと黙つて歩いていくと・・・奴が倒れている。

「殺つちまこまじょつ――アンコの兄貴――」

「早まるな、カレーよ。何か奴等の向こいつ側にいるやつ――」

「がははは、あそこには俺がメディアファクトリーに無理を
言つて頼んだ増援部隊だ。」

「ふん、だからどうした。こちちだつて味方ぐらじよんだるわい！
！そろそろ来るはずだが・・・フルルル フルルル もしもし、

磯野さん？・・・は！？北の将軍様がテポドンブッシュにして緊急防衛態勢に入つたつて！？・・・シェルターはペット禁止だから庭に防空壕掘つて忙しいから行けない？「ゴオオオオオオオオ・・・」もしもし、いその・さああああん！・・・

プーッ、プーッ、プーッ・・・

「ふん、神は我に微笑んだか。これまでだな、アンパンマン！！」

「メロンよ、まだ奴等とはcontactできんのか！？」

「日食連（日本食品連盟）はテポドンで哀れにも生き残つてしまつた首都圏のpeopleに我が身を犠牲にしてお口に特攻している、とのことです。あ、でもマンマン隊を派遣してくれるやうです。」

ぱんまん〇五、通称メロンパンナは邪夢が助手として製造したものだ。

助手は女しかいない、と思いこんでいた邪夢は当時女子学生に入気のあつたメロンパンを使用た。

血中糖濃度が脳回路の速さに比例するので、顔にsugarをいっぞい付けとて常時補給できるようになつている。

あと、nameだがさすがに「マン」を付けるのは可哀相なので名前に付けたい文字bestの葉をつけた、がそれだとパンなのか葉っぱなのかわからんないのでカタカナにしパンナになつた。

「マンマン隊か！我々の従兄弟だな、そいつは心強い。皆、彼らが来る迄生き抜け！！！」

第03話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶほほす！！」』も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

第04話（前書き）

元ネタわかるでしょうか？わかつたらコメントくださいーーー！

「戦況」 アンパンマン・マンマン連合軍 兵力50000人
バイキンマン軍 兵力900000人

両軍・かかれええええええええええええ

第一回 戰

「ジャンケンポイ！ アイゴーテシヨー！ アツチムイテホイ！」

・・・あつちむいてほい、これはアンパンマン達が一番苦手とする
分野だ。

第一、ジャンケンで勝てなければ、あっちに向くしかないのだ。

戦局はバイキンマン軍に大きく傾いていた。・・・

One hour later

アンパンマン軍、三万五千人が逝き残り15000人。

バイキンマン軍、闘争心の無い者（かたくなる、はねる、テレポート等しか使わない輩）が五百匹、仲間の手によつて逝き埋めにされる。

残り、800500人。

「第2回戦」

ボウリング。

こんな島でそんなことどうせんのかいと、思つかもしれないが、普通のとはちよつとくらルールが違つ。

両軍は一列に向き合つて、左は自軍の兵、右は相手の兵。

わかるかな？

簡単に言えば突撃特戦。

自爆、大爆発が炸裂！！！

開始十三秒で爆撃隊の捨て身攻撃を食らつたアンパンマン軍は町内会の people を失つた。

「グヌヌヌ・・・、マンマン隊の出撃を許可する・・・」

マンマン隊とは、まんの男たち、つまり、肉まんマン、あんまんマン、カレーまんマン、ピザまんマン・・・とかのこと。

なんと言つても、一番の特徴はその体にあり。

あの呼吸するのを忘れてしまつほど、まあ一気に円形。

長距離戦闘用仕様なのだ。

あんまん、肉まんは孤立してしまった部隊へのエルネギー補給用、カレー、ピザは劇薬を入れて敵を溶かす攻撃用。

「カレーまんマン隊、一番から4番装填、発射！！同時に一時の方向、右回りに秒速30メートルの回転をかけ、発射！！！」

これを知らないバイキンマン軍はカウンターができる奴等を前線に出して対抗した。

まんマン隊にカウンター、一番やつてはならないことだ。

カウンターでマンたちの皮を裂いた瞬間、慣性の法則にしたがつて具が飛び出てきて、後ろにいた攻撃部隊にもブツかかった。

さらに、混乱に陥った奴等を後ろからピザまん達が不意打ち！！

アンパンマンの怒りの放火は一撃にして主力部隊の九割を壊滅させ、士気を大幅に下げた。

残り、アンパンマン軍9000、バイキンマン軍80000。

第04話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶほほす！！」』も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

第05話（前書き）

元ネタわかるでしょうか？わかつたらコメントください〜〜。

（第三回戦）

「くつ・・・野蛮な生き物兵器を使いやがつて、こっちの科学技術をなめんなよ！！」

「ほおう、チヤカときたか。我らの得意分野だな。」

そして、戦闘はゲリラ戦へと発展した。

しかし、なんと絶対に実現不可能とされていた、レーザーガン部隊がバイキンマンの手元にいた。

「所詮ポケモンはポケモン、役に立たない生命体をそんな奴等よりもちの方がどんなに役に立つことか・・・」

簡単に説明すると、太陽からの紫外線にある、殺傷力の高い 波だけをソーラーパネルみたいなもので大量に蓄め、圧縮してレーザーポインターの原理で一点に放送出する。

まあ、それ以上細かいことは、今の人間にはチョロキューで首相官邸に深層水イモケンピを配達するくらい意味不明な話だ。

これから疑問に思ったことがあっても、そういうことなので、流してね。

「隊長、波補給完了です。」

「よおし、フォーメーション 展開！レーザー機動隊はぎりぎりまで引き付けるよ！！カレーよ、コレクションのために高い金を払ったわけでないぞ。戦争用の強力な兵器なのじや。それを、今更何を躊躇う！使わねば勝てぬぞ、この戦は！！！」

「分かつてゐよ！でも、地上への汚染被害が・・・」

「じゃかましい！！！毎秒80000以上の玉が飛びかねないのだぞ！あんな奴だけには負けたくない・・・今までおぢやらけていたが今回で決着が着く。全隊、配置に着け！！！勝つて終わらねば意味が無いぞ、心してかかれい！！！」

「全軍、構えつ！射ち方始め！！！」

バイキンマン軍はアメリカ軍から支援を受けていたため、自動機関銃が大半を占めていた。

80000の兵全員に武器を持たせる財力を奴は持つてはいるはずもない、とたかをくくつていたアンパンマンは9000の兵に普通のショットガンと癪癪玉しか持たせてなかつた。

ズダダダダダダダダダダ・・・

アンパンマン軍は前方120度から迫つてくる大量の鉄の固まりを見て、なんとその玉を玉で弾き返した。

素晴らしい！としか言ひようの無い光景。

アンパンマンとその側近はアンパンマン号に搭乗し、作戦の為飛び去つた。

アンパンマン軍は打ち返すだけではなく攻撃に転じ、兵を進めていった。

ここで矛盾が起る。

なぜショットガンがマシンガンに勝てるかだ。普通に考えてありえない。

実はバイキンマン軍は500人しかマシンガンで攻撃していない。

すごいよね、マシンガンの性能。

500人で毎秒80000発撃つ・・・残りの兵はどうしたかって
?それは次の通り。

マシンガン隊500

レ 7
— 0
ザ 5
— 0
隊 0

アンパンマン軍8900

おわかりになつたでしょうか?

アンパンマンがないアンパンマン軍はただ進撃するだけで作戦な

ど考えてなかつた。

そして・・・アンパンマン軍がちょうどビーレーザー隊の前に差し掛かつた。

カチッ！カチッ！カチッ！・・・

島全体にエアガンを空打ちしたような乾いた音が響き渡つた。

8900人のアンパンマン軍は光の速さで進むレーザーの音を聞くか聞かないかで全滅した、風船のように弾け飛んで。

残り、バイキンマン軍80000人、アンパンマン軍100人。

第05話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶほほす！！」』も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

第06話（前書き）

元ネタわかるでしょうか？わかつたらコメントお願いします！！

事態を察したアンパンマンは意を決した。

勝利を確信したバイキンマン軍に凄まじい閃光が・・・

そして、滝の「」とくかビキラーが降り注ぐ。

カビルンルンが軍の大半を占めており、700000の戦力消失、間一髪避けた奴に間髪入れずトマホーク、全滅かと思ひきや、たつた3人の奴が立つていた。

アンパンマン！お前が正義なら正々堂々 騎打ちしろーーー！」

「……無駄な足掻きはやめろ……所詮、お前のどじは第五師団だ……」「

実は、バイキンマン軍はドキン軍第五師団バイキンマン分隊だったのだ。

ちなんに五つあるうち一番弱い。

「そんな・・・もう少し猶予を・・・」

「では、なぜアンパンマンを今まで倒した事がないのだ?」

「……奴に華を持たせてやつてたんです！しかし、ドキン軍再編の噂を聞き、ついに殺さうと決心したのです！まだ我々は負けた訳ではありません。もう少しお時間を……」

「おお、よく知ってるな、軍事収縮が閣議決定したこと。明日から第五師団であるお前の隊は第一師団救護隊、並び艦内整備隊に所属することになった。伝えに行つたが門番にガラパゴス諸島に行つたと言つから、来てやつたらこの様だ。もうこれからはお前は前線に出る」とはない。まあ、軍曹にしてやつただけでも有り難いと思え。・・・・・・・・

バイキンマンはショックで声が出なかつた。

「やつのアンパンマンとか言つ奴、その兵力でよくモイツを倒せたと讃めてやりたいところだが、私が来てしまつた今も生きて還ることはできな・・・」

一瞬、壁といつて立の向ひに消えてしまつた。

だが、次の瞬間とつもないサイズの戦艦が浮上してきた。

と、よく見ると島の周りをイージス艦が囲んでゐるではありませんか！

すると、ドキンの戦艦はあのバイキンロー、ドキンローのりしきモノが十体ほど出でてきた。

中に居るのは何者か確認できない。

まあ、確認できるのはトマホーク級の追跡ミサイルが一本くついていることだ。

イージス艦がすぐに迎撃するも虚しくかわされ、危ないUFOの奇襲により一掃されてしまった。

そして、UFO達は反転しアンパンマン号の方へやつってきた。

「緊急離陸！！推力最大！！！逃げ切れええええええええ！」

さすがのUFOでも、アンパンマン号の推力にはかなわない。

「アンパンマン、あの戦艦の主砲がこの船に照準されてるわーー！」

「左舷ブースター全開、回避！ー！」

「ま、間に合いません！ー！」

一難去つてまた一難、コックピット直撃は避けられたものの、重要な第二エンジンに被弾した。

「リリース装甲、廃熱追い付きませんーー三番から五番ドック閉鎖、本船損傷率三十%超えます！推力60に低下、ダメです、墜ちます・・・」

「くつ・・・面舵20、総員衝撃に備えよーー！」

ズゴゴゴゴオオオオオオオオ・・・

アンパンマン号は珊瑚礁帯に着地した。

「再び本船に照準を確認！！」

「えええええい！！！小型機を使つぞー！コックピット以外の乗員はすみやかに下船しろ！！！敵主砲発射直前に全速前進！あのボロボロのキモイ船を殺るのだー！撃てえ！！！」

バリバリバリバリ・・・

空間が避けたような音とともに、水飛沫が島全体を覆つた・・・

第06話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶっぽす！」』も良かつたら御覧ください！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

「よし、終わったな・・・」

「デキン元帥、当艦に何か接近しています・・・光学映像を御覧ください。」

それは、アンパンマン号の鼻だった。

アンパンマン号には最後の脱出機能として、鼻のところにある「シックピッド」と乗じでいくのだ。

それがものすごい速度でデキンの戦艦に突っ込んでくる。

迎撃を命令する間もなく、鼻は戦艦に着艦し、艦内に警報が鳴り響いた。

「艦内に何者かが侵入!!」コンティンションレッド発令!!至急撃破、もし可能ならば生け捕りにせよ!!」

デキンの戦艦になんとか潜入できたアンパンマン号クルーはそれぞればらばらになり、デキン軍に壊滅的な damage を与える chance を待つた・・・

一時間後・・・

一時間後・・・

こつこつにか五時間たつたが、事態は変化せず、アンパンマン達は

カビルンルンがこるせいで空氣が混つてきて、弱っていた。

意識が薄ってきたその時、謎の声が聞こえた。

「アンパンマンがんばれ～～～」

「おお、まあにこれば俺のことをひびつ子達が応援してくれているのだな！」

もちろん、こんな場所でそんなものが聞こえているハズもなく、ただの幻聴だった。

だが、頭がグラグラのアンパンマンが気付くわけが無い。

「でも、僕は・・・愛ちゃんと勇氣君だけが友達なんだーおめえらに頑張つてつて言われる筋合にはねえんだよーーー！」

パンの湿りぐわいが最高潮になり、痴呆レベルと化してしまー、意味不明な言論を連呼するよつになつた。

さすがにこんな大きな声で怒鳴つてると・・・見つかる。

「汝は誰ぞ。」

カビルンルンはなぜか歴史的仮名遣いで喋らないといけないらしいが、アンパンマンには、

「ナニ? 腹は減つた? ジャあ、俺の顔やるから我慢しな!!」

と聞こえたらしく、カビルンルンの口に強引にあんぱんの欠片を押

し入れた。

そのカビルンルンは白目を向き、痙攣して倒れてしまった。

不適な笑みを浮かべているアンパンマンの手には、青酸カリっぽい粉のビニール袋を持っていた。

そう、時々ペットが泡を吹いて死んでいる、と言つ事件を耳にする
が、全部彼のせい。

正義のヒーローは何をしてもいいのだろうか？

・・・そういうやつてるうちに自分の顔に限界が来た。

と鼻と口しか残っておらず、機能停止寸前だった。

そして、テシモンのあの龍が置かれていた。

卷之三

その時、凄まじすぎる音と共に光に包まれた。

まあ、正確に言えば、ちょうどビアンパンマンのいた場所の横が切り離され、その衝撃で空中に放り出された。

「はあああおおり、アンパンマン!! 新しい顔だよーー!!」

そして、決めゼリフ。

「元気百倍！……アンパンマン！……」の声は……邪夢おじさん！？いや、バイキンにやられたはず……」

そんなことを思いながら時速2百キロで落下しているアンパンマン達は大きな何かに回収された。

その何かは戦艦であった。

また、ドキンに捕まつたのか、と考えたが、実際にパンが飛んできた事実がある。

「パンマンの顔を作れるのはバアタコ、邪夢、ぐらいしかいなく、この感じは邪夢がコネコネしたものだ。ビックリした！……！」

すると・・・・・まえから誰が歩いてきた。

でも、完全なる一本道、逃げ道なし。

「邪・・・いやいや、そんなはずはない。罠だ、これは罠だ。怪しい奴はもちろん撃破しかねえべさ。アアアアアアアンパンパアアアアアンチイイイ！……」

「グハツ！……」

第07話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶっぽす！」』も良かつたら御覧ください！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

あなたは謎の人物が、

「グハツ！」

と言つたと思つてますね？

正解と言いたいとこだが、ハズレ。

アンパンマンがその衝撃で吹つとんだ。

「・・・甘いぞアンパンマン、パンチに気が入つていない・・・だからいつまでたっても奴を殺れないのじや。」

「邪夢おじさん！―今まで何処に行つてたんですか―バイキンマンにやられたと思つてこれだけの犠牲を払つてきたのに・・・」

「はあ？あんなクソにやられるわけがあると思つてんのか？？私はアメリカ航空宇宙局、通称NASAからの依頼で宇宙へ出ていたのじや。何せ、内密かつ早急にと言つことだつたので。めんどくさいから断るうつと思つたが、内容を聞いて気が変わつた。

『ノストラダムスノダイヨゲン、シッティマスカ？』

『ああ、1999年7月、恐怖の大魔王が降臨し、人類は滅亡する、じやろ？そりいえば、来週だな。アメリカ政府が大丈夫だつて言つてたやつね。』

『ソレハ、セカイノヒトビトガ、パニクニナラナイヨウ』、イッタモノデス。ジッサイハ、プルトニウムヲトウサイシタ、ドセイタソキ、カツシニガアンテイキドウカラハズレ、チキュウニツイラクスルコースヲトツタミタイデス。フレワレガ、ハサイサギヨウヲオコナイトロロデスガ、ミサイルヲノセルト、オモスギテベナイノデ、ジャムサンにオネガイシタイノデスガ・・・』

『はあ？ 何でアメリカの技術でそんな低レベルなことができるのぢや！・！・・まあ、良い。地球のため、その依頼お受けしようぞ。』

つていこうことになり、資金を貰つてレイの新型艦を対宇宙戦に適応させ、飛び立つたのぢや。まあ、エンジンが強いから、大気圏の通過も降下も大したことはないのぢやが（どんなエンジンだよ！）、なにせ相手がプルトニウムだからな、磁力で遠くにやつてバツコオオオオオンじや！・！あの光は花火よりも綺麗だ。唯一、ミスつたとすれば、気象衛星ひまわりを左翼にぶつけて粉微塵にしたことぐらいだな。ともかく、作戦成功。で、パン工場に戻つてきたり村の民から全員いないことに気付いた。そして、さ迷うこと数分、AM radioから『ガラパゴス諸島付近で何物かによりイージス艦隊が全滅』の知らせを聞き、もしやと思い、来てみれば・・・何だこの有様は！・！・愛しのアンパンマン号を壊しよつて！・！今度こそぶつ殺してやる、と思つたが、鼻がワケのワカラソ飛行体に刺さつたので、事態の緊急性を感じ、ライトサーベルでそいつの格納庫らへんを切り落とした。そしたら、おめえが出てきたのぢや。あまりにも突然のことだったから、とりあえずパンを投げた。そしたら衝撃で猛スピードでこの船めがけて突進ってきて、ただの長い通路の非常口から入つたのぢや。で、今に至る。で、戦況は？』

「宇宙いつてただあ？今までに犠牲になつた奴は無駄死にかよ！・！

！なんてこつた！まあ、状況は自軍100人弱、向こうは未知数であります。バイキンマンの上にいるドキン軍の科学力は凄まじいですよ。アンパンマン号が全く歯が立たなかつたし……」

「バカモノ！アンパンマン号は移動専用だぞ！！！兵器つて言つたつて、たいしたものは積んでない！！！だてに五十年パンこねてるワケじやねえぞ！！！なめるな！！！ドキン軍よ、パン屋の力、思い知るが良い！！！！！」の世で一番強いのはパン屋だ！！！！！

「それは失礼いたしました。では、さつそく指揮を・・・」

「ワシもおまえも出るー指揮は艦長に任せたるー。」

「出るつて・・・何かあるんですか?」

「まあ、見てのお楽しみじゃ……總員、第一戦闘配備、特務班はテツキヘ……！」

第08話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶほほす！！」』も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

その頃、ドキン軍は・・・

「格納庫破損！アンパンマン一行はunkownに回収されました。」

「・・・unkownは何処に？」

「・・・それが・・・」OSTしました・・・いや、後方に戦艦クラスの巨大な熱エネルギーを感知！」

「?なんもの何処にいるというのだ?熱探知機の故障だろ。」

「そんなはずは・・・」

邪夢軍では・・・

「ミラー・ジュー装甲から電解装甲に切り替え、同時に特務班を1・2デッキから射出！射出後、本艦は残りのドキン軍各師団を一掃すること任務といたします。定刻ヒトヨンマルマル、作戦開始。」

アンパンマンは邪夢から受け取った機体の細かなチューニングをしていた。

起動画面には『junction Ah yah yah Mind 3』と書いてあつた。

無理に訳すと『あひやあひや（痴呆気味な、頭のいかれた）』つてる
氣の接合機3号』、要するに装甲の厚さは己の精神の乱れにに比例
する機械といつことだ（開発者自体いかれてるので）。

そんな馬鹿げた名はいくら何でも不味いと思った邪夢は頭文字を取
つて『JAM3（ジャムさん）』と公表した。

そのおかげで邪夢さんが作った3号機だからJAM3と呼ぶのだと
勘違いしてる者が多く、先の事実を知っているものはパイロットと
邪夢と博士ぐらいだ。

実はJAM3のAは最初atomicだった。核 それは人類が
作り上げた最強のエルネギー しかし、一握りで島が吹き飛ぶ物
が何機もあつたら、万が一の時凄まじい被害を被る事になりかねな
い。

だから、核動力を断念、新たなエルネギーとして精神を検討してみ
た。

精神は高度の能力を持つた動物、人間の賜物。

エルネギーとしては問題ないらしいが、人から精神を吸い取り過ぎ
ると・・・一生放心、つまり植物状態になってしまふ。

即ち、パイロットは強靭な精神の持ち主でなければならなく、俗に
言う『氣孔師』が適している。

で、何だかんだで世界中から『』腕の氣孔師を招き、戦闘技能を身
につけさせ、特務班を結成したのである。

なぜ精神エネルギーなのに Ah yah ya Mindのかつて？

それは平常心より怒り狂った心の方がエネルギーが無限大だからだ（正常な判断ができなかつたらどうすんだ！！）。

あ、話をしているうちに定刻になつたみたいだ！

（邪夢軍）

「定刻通り本艦は任務のため離陸いたします。特務班はブリッヂから襲撃態勢をとつてください。」

（ドキン軍）

「ん？ 热探査機に異常はない？ じゃあ、謎の熱源にパルスレーザー照射せよ！」

ズギヤヤヤヤアアアアアアン・・・

パルスレーザーは何かに当たり、煙がたちこめていた。

視界が回復した時、ドキンは邪夢軍の一部始終を理解した。

謎の熱源は勿論邪夢軍の戦艦であり、レーザー照射寸前で電解装甲に切り替えたので、電子兵器であるパルスレーザーは分解され塵となつた。

なので、艦自体は無事だったが、ちょうどブリッヂから発射された

特務班はといふと・・・不意の攻撃だったので気が緩んでいた数機が姿を消していた。

その他は精神力が高い、つまり装甲が厚かつたので多少焦げた程度で済んだ。

あ、JAM3の装甲はbreadだから(笑 もうわけらんね)。

「(邪夢)皆、ここからは気を引き締めないことは死を意味するのじゃ!! わかったか!! 特務班、あの忌まわしいヘンテコ船を潰すぞ!!!!」

第09話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶほほす！！」』も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

JAM3の搭載武器は、ちょっとしたエネルギー系兵器と…。
ドオオオオオ、ピキュンピキュン、ドオツ、ドオツ、ピキュン…。
(ブースターで激しく動き回りながら、攻撃する音。考えを文字化
するのは難しいね…。)

あまりにも素早く動き回る邪魔達に、キン艇は回避する時間もなく、
一方的にやられるしかなかつた。

雨が降つていて太陽光が無いため レーザーも使えず、例のUFO
も発射口で待ち伏せされていたため全滅。

「センサーの70%にdamage、125から153ブロックま
で閉鎖、推力50%に低下!!!!」

「近くに友軍基地は…?」

「第一師団がありますが、現在休暇中なので皆不在です…。」

「…・・・仕方がない、潜水シークエンスに入れ!あのクソ軍
曹の所に行つてくる…。」

必死に消化活動に励んでいるバイキンマン軍曹を個室に呼び出し…。
ついに真実が明かされた…。

「元帥!俺を使つ気になりましたか!?!何でもやりますゼイーーー!」

「・・・じつはなつてしまつた以上、おまえを使うしか手はない・・・おまえ、つまりパンマン01はなぜ、他のパンマン達のようにパンではなく、しかも補給しなくて済むのか知つてるか?」

「そりいえば・・・」

「森の中で珍しい生物がいて、捕獲した。調べとみると、そこそこの科学力があり、標本にするには惜しかつたので我が軍に迎え入れた。だが、戦闘訓練では竹製の水鉄砲ですら瀕死状態になるという弱体ぶり、数時間に一度、邪夢のところのパンを付け替えねばならないというめんどくわさ。どんなに暑い夏の日でも私は返送をし、有りつたけのパンを買い占めて行つたものだ。しかし、事件が起きた。番犬には見えないチーズにコートを噛まれ、脱げてしまつたのだ。その日から邪夢に目を付けられ、堪え忍んだわけだが、我慢の限界が来て、武器を持って話し合いをしようと思った。だが、邪夢は怯える様子もなく、こう言い放つた。『私は5154銀河連盟所属第25宇宙監査員の邪夢だ。わかるな?もしこの星に危害を及ぼすことがあれば即刻消す。』本当に焦つた。発足当時は日本の自衛隊ぐらいの戦力しかつたが、宇宙制覇の夢に燃えていた。こんなところで夢を捨てたくなかつた私は、お前を核動力にし(そのため、頭から出る高温の水蒸気がツムジから出でており、後ろを通つた数人が毎日爛れ死ぬ。)、私の全てをインストールした、邪無を倒すため。しかし、奴もパンマン02を作つていたために今日まで至るわけである。要するに、神風特攻をせよ。安心しろ、すぐにこの世の苦から解放できる・・・」

そう言つと怪しい注射を瞬間でバイキンマンの首筋に刺した。

NEUTRON bomb発射型バイキンレールガンにバイキンマ
ンはセシトされていた（NEUTRONは頭文字を繋げたもの。最
初のNはnuclear。後の単語は現文明には訳語が無い！）。

核動力と言つても、そじらへんの物と比べてはならない。

プルトニウムよりはるかに放射性が高い原子（原子番号151、も
ちろんIUPAC 国際純正・応用化学連合に報告するハズもなく、正式名は無い。愛称はミュー！）を使用し、原子圧縮技術を使
い1000分の1まで縮小。

臨界点に達した時に元の大きさに急激に戻るため、素晴らしいとし
か言いよつの無いエネルギーが放出される。

しかも、爆発寸前に爆風範囲も指定でき、その球の外にどのくらい
の放射能漏れが起こるかと云ふと、君たちが今携帯のバックライト
から浴びている量と同じくらい。

おお、なんて地球に優しい最強兵器なんだ！（そういう問題じゃ・
・）

ちなみに5154銀河（この地球がある銀河ね）を爆風範囲とする
と、1立方キロメートルにファットマン（太平洋戦争で日本に落と
された原子爆弾）一つの被害。

想像してください、ガラパゴス諸島を爆風範囲とした時の有様を・
・

第10話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶほほす！！」』も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

改造されたバイキンマンUFOが突如邪夢達の前に現われた。

「（邪夢）あれに乗つてるのはドキンじゃーせつかくだからレーザーではなく、究極必殺技を使つぞ！－！ホオーメーシヨンツ＝3じゃ！－！」

「邪夢のおやつサン！あればどう見ても六回五百円で取つたUFOキヤツチャ－のドキン人形じゃないですか！－！これは罷です！Stop it！」

アマゾン川から出て来たシャーマンの声は邪夢に届かず、仕方なく自分だけ抜ける事にした。

「へりえ！必殺bore adクラッシュ！－！」

・・・と言つてもただ円陣になつて体当たり、いや突進をするだけなのだが、ダイヤモンドカッター数機分の威力になる。

だつて装甲パンですよ！－？

さすがパン屋の力。

しかし、見て分かるとおつドキン軍の方が科学力があるよつに感じる。

それは、邪夢の管轄である5154銀河連盟は地球に優しい軍隊を

田指しておひり、主にパンを主要としているからだ。

たとえクズがでてもちゃんと黴が生えて土に帰る。

それに大してドキン軍は未来の人類科学みたいなもの。

やつぱりドキン軍の方が強いじやんつて？バカを言つてはいけない。

銀河には数えきれないほどの太陽系に似たものがある。

そして、また数えきれないほどの銀河系がある。

一つの銀河系には科学を極限まで極めた星が大体一つある。

そして、そのような星は他者と嫉み、罵り、争い、殺し、殺され、・・・」の憎しみと復讐で満ちあふれたどうしようもない悲惨な歴史を何千回と繰り返してきた。

大地はただの荒れ地になり、氷河期に突入し・・・だから、こんな哀れみた歴史を創らぬよう他の星を監視するようになった。

間違つた方向になつたら修正する。

そして、領土的野心を持たないという理念のもと、宇宙保全理事局が設立された。

しかし、監視業務を宇宙保全理事局のみでやるのは不可能。

そこで、全銀河系から文明が一番発達した種族一種に全てを話し、監視業務を委託するように

なつた。

5154銀河は発達した星がいくつあるため連盟を組んだ。

各太陽系の周辺を監視することになつており、古代からパン文明が発達してきた邪夢の星では政府とは独立した組織（簡単に言うとMIBみたいなもの）が駐在監査員を派遣している。

しかし、地球にはドキン軍という不安要素があり、責任も伴うので長の邪夢が抜擢された。

この星に来て、正体がバレルのはヤバいので、最初は普通にパン屋を営んでいた。

バイキンマンが町を荒らしていても、本部の排除許可ができるまでは堪え忍んでいたわけだ。

ちなみに宇宙保全理事局の科学力は・・・最高まで極められている。

化学は、人工的に全ての原子を核融合の膨大なエネルギーを発生させずに造ることができる（そのことにより金の値段が大幅下落）。

生物学は人工的に命を作り上げることができる（死者復活、記憶の操作、遺伝子操作で気に入った人間を作成、いい例がぱんまん）。

物理学は、宇宙の広がる速さより速く移動することができる（近日宇宙の外が明らかになるらしい）。

まあ、唯一できないとしたら、タイムマシンぐらい。

あれは根本的に無理な話ですよ。

とにかく、全ての学問が全項目において発見されたのじや。

・・・無駄な話が結構長引いて申し訳ない、いよいよ、後に『バイキンマンとアンパンマンの最終戦争』と記されるこの戦いは終わりを迎える。

最後に笑うのはアンパンマンか、バイキンマンか、ドキンなのか、邪夢なのか、はたまた北の将軍さまか・・・結末はいかに！－！

第1-1話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶっぽす！」』も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

「一番左の奴！座標（3,0,152,1）だ！！おめえがずれてるせいで2,3にならんだらうが！！！早く移動しろ！！！…そしたら、自動操縦に切り替え極限まで気を高めるのじや…！」

「んなことこわれても半径無理数じゃん！しかも単位わかんねーし。まあ、とつあえず自動操縦にしどこでやるか。」

「よじつーイクゾッ、必殺breaadクラッシュ！」

キュイ————ーン…………ドッカアアアアアアン……

あの歯医者のドリルのような音がなったあと、あのコロコロは跡形もなく消え去っていた。

「（邪夢）やつたーーやつたぞ、皆の者ーーーやつとドキンを葬り去つたぞーーーよおし、帰つて本部に報告じや。…………？？？…………おかしご……機体がこれ以上進まん……なんか火花が散つてゐし……何だこれは……」

「（ドキン）教えてやるつ、おまえらはその球の中からはだられな。安心せよ、今消してやる……」

「お前はさつと爆発したUFOの中にいたはずじやーーなぜ生きているーー。」

「（ドキン）ワカラんのか？罷だよ、罷。パン屋は昔から閃きだと

聞くが・・・まさかお前も例外でないとはな。」

「（必殺技に参加しなかったシャーマン）邪夢さんーだが『』と言つた
じゃないですか！－今助けるから待つててください－－！」

「（ドキン）『』のお前、この味の素特製調味料五百セットが欲しい
のではないか？確かにお前の国は調味料は食してはいけないはずだ
よな？この世界各国から選りすぐつて選んだこれをお前にやろう。
さあ来い！－！」

シャーマンは邪夢達に深く一礼するビドキンの方に飛んでいってし
まつた。

思いもしなかつたシャーマンの裏切り、ありえないぐらいの放射能
すら無害の程度しか漏らさないこの球体から邪夢たちが脱出する確
率は既無に等しい。

絶体絶命の次元を超えているこの状況、もはやなるよつてしかなら
ない。

気が付くと、あのバイキンマンからレールが延びていて、そこには
ドキンが乗っていた・・・

「（アンパンマン）バイキンマンー！」

「（ドキン）すでに意識は無い。コイツは我々ドキン軍の科学の結
晶、この偉大さを最期に拝められることに感謝しぃ。」

「（カレーパンマン）お前に慈悲といつもの無いのか！－！」

「（ドキン）我は自らの夢を遂行するのみなり・・・・塵と消えよ
！――」

「（邪魔）・・・・・やはりパンでは科学に勝てなかつたのか・・
・無念なり・・・・・・」

「（ドキン）NEUTRON bomb発射型バイキンレールガン
照射――」

「（メロンパンナ）いやああああああああああ――」

そして、ドキンが初めてニヤケ、ボタンを押す

第1-2話（後書き）

作者の物語ブログ、『「じつじおぶっぽす！」』も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

第1-3話（終）

だが、その瞬間 一筋の光が球体を貫いた

球体は張り裂け、NEUTRON bombは凄まじい勢いで島に叩きつけられた。

その瞬間に発動、しかし謎の光がNEUTRON bombの臨界を上から抑えつけ、拡散できない核分裂反応は島をドンドン掘り下げている。

一秒もたたないうちに光はNEUTRON bombまで到達し、反応停止させた。

その直後、全世界はエルネギー大恐慌に陥った。

謎の光 それは宇宙保全理事局が作った対核用の兵器、nuclear barrier obstacle 通常NE邪魔は半径1億キロの範囲で核分裂を阻害するといつ画期的な兵器。

一発打ち込めば、核戦争は回避できるのは確かだが、同時にその星に深刻なエネルギー問題を与える。

何でかつて？それは君、原子力発電所と言つものじやよ。

ただの頑丈な鉄クズ場と化してしまつのだ。

勿論、peopleは原発が止まつた理由など知るよしもない。

だから、ノ邪魔は最後の手段なのだ（ノ邪魔は最高機密事項なので、邪魔は勿論知らない）。

さて、なぜそれが突然空から舞い降りてきたのか？

話は最初のほうにまで遡る。

北の將軍様が核を搭載したテポドンを日本に撃つてきた。

しかしここで日本は迎撃システムの創案中だつたのでなすすべなし。

ちゅーどーーん！！！

日米安全保障条約を理由に、アメリカ軍が北朝鮮に核で報復しようとしていたのだ。

宇宙保全理事局は採択でノ邪魔の使用を決定し、宇宙の広がる速さより速い速さ（まあ、俗に言つワープー）で地球目がけて発射した。

それは良いのだが、理事局の地球の座標データは日本が大陸と繋がつていた時代より遙か昔の物だつたため、相当な計算ミスをして到着地点がガラパゴス諸島になってしまったわけだ。

まあ、要するに偶然助かつたワケ。

おお、邪魔はどこまで運が強いのやら・・・

その現場にいた全員は吹き飛ばされ、ナーがナーでどうなつたのかさつぱり理解できていなかつた。

「（邪夢）…………なぜこんな場所で生きているんだ？？おお、よく見れば田の前に氣絶したドキンが！！！チャアアアアアンス！！！行け、モンスター・ボール！！！！！」

宇宙保全理事局の罪人逮捕法の3項には、罪人はモンスター・ボールで捕獲しなければならないと規定されている。

「ドキン逮捕完了！！これから本部へ連行する。だが……この状態をどうせよといつのだ？」

「するといいく……

ズゴゴゴゴオオオオオ……

空の彼方からあの速さで邪夢達の前に理事局仕様の小型輸送機がきた。

「いやー邪夢君、お疲れさま！しかしまあ、ずいぶんと派手にやつてくれたね。」

「あなたは！！宇宙保全理事局長！！！いやはや、かたじけない・・・こんな相手にこれほどの犠牲を払つてしまつとは・・・人生的汚点です！！！」

「そんなに自分を責める必要は無いよ、邪夢君。君はもう時期そんなことは忘れてしまつ。フフフ（――）」

怪しい笑みを浮かべると、例の物を取り出した。

「（邪夢）そ、そ、それは一コ一ララライ・・・・・・・・

・・・ピカツ！・・・・・・

「（局長）いや～、邪夢君、今日は君やパンマンたちと一緒にガラパゴス諸島の遺蹟発掘調査を行い、誠にためになつた。君の働きには感服するよ。私はちょいと用事があるからこれで帰ることになるが、君たちは頑張つて掘り続けてくれたまえ。では・・・」

そう言つとすぐに帰つてしまつた。

お分りになつただろうか？

邪夢達は今日、この戦いの記憶は完全に封鎖され、一生懸命いい汗流しながら掘つている。

そして、この戦闘を目撃してしまつた方々も、今は何事もなかつたようになに平和に暮らしている。

地球上からこの事件は抹消され、間違つた方向へ流れつつあつた未来はパン屋に救われたのだ。

そう、これで万人が平和に暮らしていく・・・

はずだった・・・

【この物語は事実を曖昧ながら再現しています。決して笑いをとるものではありません・・・なんちつて（笑）】

第1-3話（終）（後書き）

作者の物語ブログ、『「Jリビングおぶぽねす！-！」も良かつたら御覧ください！！！

<http://blog.cron.jp/user/azz/>

アンパンマンTRANSIENT 00

あの大戦から三年 ガラパゴス諸島で新事業に成功し、平和に暮らしていた邪夢達一行は再び戦火に身を投じることになった。

記憶を消された彼らに何が起ったのだろうか。

その頃、謎の白づくめ集団『スカラーレ教』を名乗る組織が水面下で着々と計画を実行へと移す準備を進めていた。

またもや地球、いや、宇宙の未来を悪い方向へと導いてしまうのだろうか。

大人気（？）完全に迷作ですよね（笑））アンパンマンシリーズ第2弾、そのうち配信予定！！

アンパンマンTRANSIENT 00(後書き)

この話の本編『新説アンパンマンTRANSIENT』は以下の

<http://ncode.syosetu.com/n7869>

a /

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5707a/>

新説アンパンマン

2010年10月11日13時47分発行